

誇りあるその日暮らし

文人の武蔵野

五木寛之(1932年)の「黄金時代」(「新潮」67年8月)は、上京して武蔵野で暮らす20歳の大学生を描いた青春小説です。作中の現時は52年。朝鮮戦争など地続きの大学生の日常が描かれ、周囲はデモ活動をしています。主人公はそんな余裕はなく、「歴史」に参加できていないという劣等感を感じています。

そんな主人公が見つけた

五木寛之 ①



田無神社の境内には、五木寛之との関係が記された看板がある

「定住所」は、「人目につかぬ」「武蔵野を走る私鉄の沿線の小さな町にある古い神社」の「床下」でした。仕送りはなくその日暮らして栄養

失調と貧血で目もかすみ、製薬会社が求める「供血」という名の売血によって飢えを凌ぐ毎日でした。しかし空腹を苦痛と感ずることはなく、故郷の父親への手紙には「住む所も、金もあるし、友人も沢山できた。ロシア文学も原語で読んでいる」「今は自分の黄金時代かも知れない」としたためています。

「黄金時代」としては、父親を安心させて自分を励ますためもありますが、周囲の大学生とは異なり完全に自立して生きているという矜持もあります。ロシア語の「横井教授」からの優しい眼差しも、同級生から一目置かれていられるのも、彼に対する劣等感の裏返しとして理解できます。実際、「君を見ていると、ぼくはいつももあるコンパ

レックスを感じるんだ。君は気づいていないかも知れないが」とクラスのスターの存在である学生「活動家」から声をかけられています。

「武蔵野」で始めた大学生活に主人公は誇りを持ち、「黄金時代」と呼んだのでした。(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・十屋忍)

武蔵野

本社 江東
立川 武蔵野

武蔵野支局 〒180-0006
武蔵野市中町1の13の1 3F
電話 0422(51)3131
FAX 0422(51)3133
musasino@yomiuri.com
都内版編集室

電話03(3217)1465・1466
江東支局 電話03(3631)6116
立川支局 電話042(523)4477
ホームページ
www.yomiuri.co.jp/local/

購読は **10120-4343-81**

【広告】読売Palette 03(6272)9027
【折込チラシ】 0120-03-4343
【読売旅行】 03(5550)0666

5月18日(水曜日)
旧 4月18日<先負>

通日 138
月齢 17.3
(正午)



—東京標準—
満潮 5.17
19.25
干潮 0.06
12.22
(大潮)

あすの暦

日出 4.34
日入 18.41
月出 21.24
月入 5.54

おすすめの1冊

「五木寛之小説全集 2」(講談社)

直木賞受賞(1967年1月)直後に立て続けに発表された作品群が収録されています。その中でも「黄金時代」は五木の最初の自伝的な作品で、私小説ではありませんが作者の姿も垣間見えます。成功してから無名時代を愛おしみ、黄金時代だったとふりかえっているとも言えます。



五木寛之の自伝的小説「黄金時代」